

## 2021 年度（対象年度：2020） 自己点検・評価シート

## 基準 3 教育研究組織

## ■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果（委員会案）において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301	基本構想 400 を念頭に戦略的研究政策及び施策を検討する。

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》 *各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし

<【参考】認証評価結果（委員会案）における指摘事項>

※認証評価結果（委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

## I. 自己点検・評価

## 1 自己点検・評価結果 &lt; 評定 &gt;

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。 ①大学の教育理念・目的と附置研究所、センター等の組織の適合性 ②研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮	A

## 2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
301① 学則第1条の目的を達成するため、学則第70条の規程に基づき、大学の附属施設として、4つの附置研究所および人間・科学・宗教総合研究センター（「以下、「人間総研センター」という。）ならびに世界仏教文化研究センター（以下、「世仏研センター」という。）を設置し、研究活動を展開している[301a]。 附置研究所は、本学の教育理念・目的に基づき編成された学部・研究科に応じて設置している[301b]。 人間総研センターは、本学が所有する研究資源を活かし、人間・科学・宗教に関連する高度な研究成果を国内外に発信し、本学が戦略的に行う研究を推進することを目的として設置している[301c]。

世仏研センターは、仏教を機軸とした国際的な研究拠点を形成し、学術研究の遂行を通じて現代社会の切実な諸課題に応え得る指針を提示することによって、社会へ貢献することを目的として設置している[301d、301e]。これらの研究組織は、それぞれの目的を関係諸規程に定めている。また、その目的に照らし、それぞれの運営委員会等において、毎年度、研究活動の内容および進捗状況の報告に基づき点検・評価している。

個別の点検・評価としては、次のとおり行っている。

〔附置研究所〕

毎年度、研究活動の内容及び進捗状況の報告にもとづき点検・評価している[301f]。

〔人間総研センター・世仏研センター〕

人間総研センターが所管する重点強化型研究推進事業採択研究プロジェクトについては、原則、各年度において予め定められた評価指標に基づき、事業進捗状況を確認している。また、文部科学省私立大学研究ブランディング事業から継続実施している犯罪学研究センターの研究プロジェクトについては、当初計画に基づき、2020年度も外部評価の実施を予定していたが、コロナ禍の影響により主たる事業が2021年度に延期されたことに伴い、外部評価も延期することとした。ただし、その代替措置として、重点強化型研究推進事業と同様に事業進捗状況報告書の提出を求め、評価した。[301g]。

世仏研センターにおいても、各研究プロジェクトからの研究活動の内容及び進捗状況の報告にもとづき点検・評価している[301h]。また、2020年度には、センター設立5年を経過したため、2015～2019年度の5年間を対象として、学内外有識者による外部評価を実施した[301i]。

301②

人間総研センターが所管する重点強化型研究推進事業採択研究センターをはじめとして10研究センターのプロジェクトを推進した[301a]。2020年度は、重点強化型研究推進事業採択研究センターの研究成果等を掲載した人間総研センター研究紀要「Ryukoku Journal of Peace and Sustainability」を刊行した。本紀要は、国際水準のジャーナルとなることを目標とし、英文による執筆を推奨するとともに学内外の有識者による査読を行った。また、国際性を担保するため国際的な論文識別子であるDOI(Digital Objects Identifier)を付与し、オンラインジャーナルとして広く公開した[301j]。また、同紀要刊行を記念して研究交流会をオンライン開催し、今後の研究センター間の連携の可能性について議論した。

世仏研センターは、第5次長期計画の研究分野における新たな展開として、本学が積み重ねてきた仏教研究の実績を基礎にさらに発展的かつ国際的な研究拠点を形成することを目的として設立された[301e]。世仏研センターは、3つの部門(基礎研究部門、応用研究部門、国際研究部門)を軸に研究を推進している。

以上のことから大学の理念・目的に照らして、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であると認識している。

長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
301	国際ジャーナルを念頭に置いた研究紀要の刊行(査読付、電子化、英文執筆推奨、DOI付与)
課題事項《箇条書き》*伸長すべき点、改善すべき点	
301	SDGs達成に寄与する研究成果等の発信

### 3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等)への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
基本構想400アクションプラン達成に向けポスト重点強化型研究推進事業(次期研究支援制度)設立に向け、人間総研センター及び世仏研センターの研究代表者等による懇談会を3回開催し、原案作成のための意見交換を行った。	

<今年度の伸長・改善計画>

項目No.	課題事項と伸長・改善方策(到達目標を含む)
301	現行制度「重点強化型研究推進事業」による成果創出と次期支援制度の原案作成

## 4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	根拠資料の名称
301	a	大学ホームページ(Home> 研究> 研究所・研究センター) 【ウェブ】
301	b	各附置研究所の規程
301	c	人間・科学・宗教総合研究センター規程
301	d	世界仏教文化研究センター規程
301	e	2014年度第15回評議会(2015/2/26開催)資料(抜粋)
301	f	各附置研究所の研究プロジェクトの評価要項
301	g	2020年度研究評価委員会資料(抜粋)
301	h	世仏研センターの研究プロジェクトの評価要項
301	i	2020年度外部評価票(非公開)
301	j	人間総研センター研究紀要 Ryukoku Journal of Peace and Sustainability(表紙・目次)

## II. 評価結果

<p>総評</p> <p>大学の付属施設として、4つの附置研究所、人間・科学・宗教総合研究センター（以下「人間総研センター」という。）、世界仏教文化研究センター（以下「世仏研センター」という。）を設置し、研究活動を展開している。附置研究所、人間総研センター、世仏研センターは、毎年度、それぞれの研究活動及び進捗状況を点検・評価している。2020年度は、人間総研センター内に設置する犯罪学研究センターが外部評価の実施を予定していたが、コロナ禍の影響により主たる事業が2021年度に延期されたため、外部評価も延期することとなった。2021年度には、予定どおり外部評価を実施することが望まれる。また世仏研センターが、センター設立後5年を経過したことを踏まえ、2015～2019年度の5年間を対象とした外部評価を実施した。今後、外部評価の結果に基づく伸長・改善が期待される。</p> <p>人間総研センターは、2020年度、研究成果等を収載した研究紀要「Ryukoku Journal of Peace and Sustainability」を刊行した。同紀要は、国際水準のジャーナルとなることを担保するため、国際的な論文識別子であるDOI (Digital Objects Identifier) を付与し、オンラインジャーナルとして広く公開している。さらに同紀要の刊行を記念し研究交流会をオンライン開催し、人間総研センター内に設置する各研究センター間の連携の可能性について議論した。今後、同紀要が国際水準のジャーナルとして活用されることが期待される。</p> <p>2021年度は、基本構想400のアクションプラン達成に向け、ポスト重点強化型研究推進事業（次期研究支援制度）の設立に向けた議論が進むことが期待される。また、あわせて重点強化型研究推進事業（現行制度）の成果創出が望まれる。</p> <p>以上のことから、附置研究所、人間総研センター、世仏研センターは、大学の理念・目的に照応し設立され、それぞれの研究活動及び進捗状況を点検・評価し、伸長・改善につなげていると評価できる。</p>
<p>長所・特色《箇条書き》</p> <p>世仏研センターが、2015～2019年度の5年間を対象とした外部評価を実施したことは、同センターの活動実績を客観的に確認したものと評価できる。今後、外部評価の結果を同センターの研究活動等の伸長・改善につなげることが期待される。</p> <p>人間総研センターが、研究紀要「Ryukoku Journal of Peace and Sustainability」を刊行し、オンラインジャーナルとして広く公開していることは評価できる。今後、同紀要が国際水準のジャーナルとして活用されることが期待される。</p>
<p>課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載</p>
<p>犯罪学研究センターが、2021年度に予定通り外部評価を実施することが望まれる。【留意点】</p> <p>世仏研センターが、今後、外部評価の結果に基づく伸長・改善に取り組むことが望まれる。【留意点】</p> <p>2021年度は、基本構想400のアクションプラン達成に向け、ポスト重点強化型研究推進事業（次期研究支援制度）の立案に向けた議論が進むことを期待する。また、あわせて重点強化型研究推進事業（現行制度）の成果創出が望まれる。【留意点】</p>

## 2021 年度（対象年度：2020） 自己点検・評価シート

## 基準3 教育研究組織

## ■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果（委員会案）において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301①	「3つの方針検証委員会」において継続的な見直しをする。
301①	「3つの方針一体的見直し作業部会」を発展させた「3つの方針検証委員会」において、教学マネジメント体制を整備する。

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》	*各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし	

<【参考】認証評価結果（委員会案）における指摘事項>

※認証評価結果（委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

## I. 自己点検・評価

## 1 自己点検・評価結果 &lt; 評定 &gt;

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。	A
	①大学の教育理念・目的と学部(学科または課程)構成及び研究科(研究科または専攻)構成との適合性	
	②教育組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮	

## 2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
301① 学部、研究科の設置に際しては、「建学の精神」の具現化と「龍谷大学の教育理念・目的」[301a]との適合という観点に基づき、設置の必要性について審議が重ねられ、最終的に評議会にて承認する体制をとっている。また、「建学の精神」と「龍谷大学の教育理念・目的」に基づいて、各学部、研究科の理念・目的が策定され、それらは「龍谷大学学則」「龍谷大学大学院学則」に定められている [301b]。

教育組織の編制は、「龍谷大学の教育理念・目的」と学部・研究科の教育理念・目的の連関性を明示した「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」[301c]、「学生支援の方針（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」）」[301d]、「教育研究等環境の整備に関する方針」[301e]に基づき行われている。

なお、「3つの方針一体的見直し作業部会」（2019年度からは「3つの方針検証委員会」）において、3つの方針を軸とする教育の質保証の仕組みを整備することについて検討を行い、2019年度入学生より新たなDPとCPを適用したことに加えて、これらのDP及びCPとの統合が取れるよう、APの見直しを実施した。また、2019年度に引き続き2020年度においても「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」について、全学的見地からの確認及び一部修正等を行っている。

301② 学部、研究科では、全学教学政策会議、大学院教学会議、教学会議、教養教育会議、学修支援・教育開発センター会議、入試委員会、全学グローバル教育推進会議、全学キャリア会議等に委員を選出し、それら会議を通じて、学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等についての全学的課題に対する審議や認識の共有等を図っている。

長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
301①	「龍谷大学の教育理念・目的」、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」等の策定による教育組織の編制原理の明確化。
301①	3つの方針を軸とする教育の質保証の仕組みを整備することについての検討
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
301①	「3つの方針検証委員会」における見直し作業の継続と教学マネジメント体制の整備・充実

### 3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
301①	教育組織の編制原理として、「龍谷大学の教育理念・目的」と学部・研究科の教育理念・目的の連関性を明示した「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」[301c]、「学生支援の方針（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」）」[301d]、「教育研究等環境の整備に関する方針」[301e]の関係を整理した。
301①	「教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上の指針」（以下、指針とする）を定め、教育活動を恒常的に検証する体制（全学教学政策会議、教学会議、3つの方針検討委員会）を構築し、さらに指針に基づく教育活動における検証・改善するスキームとして、2021年度中に「アセスメントプラン」の策定を目指す。

#### <今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301①	「3つの方針検証委員会」において継続的な見直しをする。
301①	「3つの方針検証委員会」を基軸とした教学マネジメント体制を整備する。

## 4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	根拠資料の名称
301	a	龍谷大学の教育理念・目的 <a href="http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html">http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html</a>
301	b	龍谷大学学則 龍谷大学大学院学則
301	c	「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」 <a href="http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html">http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html</a>
301	d	「学生支援の方針（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」）」（URL： <a href="http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/policy/index.html">http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/policy/index.html</a>
301	e	「教育研究等環境の整備に関する方針」

## II. 評価結果

総評
<p>『龍谷大学の教育研究組織の編制原理』において、教育組織の編制は、「龍谷大学の教育理念・目的」と学部・研究科の教育理念・目的の連関性を明示した「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針策定の基本方針」、「学生支援の方針」、「教育研究等環境の整備に関する方針」に基づき行うと定めている。</p> <p>2020年度は、学問の動向、社会的要請や大学を取り巻く環境等を踏まえ、本編制原理に則り理工学部を改組し「先端理工学部」を開設した。その他の学部・研究科を含め、教育理念・目的と教育組織とが適合しているものと評価できる。</p> <p>各学部・研究科は、全学教学政策会議、教学会議又は大学院教学会議等の各種会議に委員を選出し、それらの会議において、学問の動向、社会的要請、又は大学を取り巻く国際的環境等の全学的課題について、審議や認識の共有等を図っている。</p> <p>2021年度中に、「教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上の指針」に基づく教育活動における検証・改善するスキームとして「アセスメントプラン」を策定することを目指している。</p>
長所・特色《箇条書き》
<p>2021年度中に、「教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上の指針」に基づく教育活動における検証・改善するスキーム「アセスメントプラン」が策定されることが期待される。</p>
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載